



学長 芝山 豊 Shibayama Yutaka

別品の大学

人は他者の幸せへの関与を通じて幸福感を得ることが最近の脳科学などによって証拠づけられています。他者の痛みを感じることができなければ、真の幸福は手に入りません。清泉女学院大学・短期大学が「ここを育てる」大学を標榜する意味もそこにあります。

「ここ」と対をなすことばは「かたち」です。かたちは見えますが、ここは見えません。「大切なものは、目に見えない」のです。スペインに源をもつ本学設立母体、聖心侍女修道会のシスターたちが、過酷な疎開生活の後、長野市に居を構えてから今年で70年になります。本学は、その精神を引継ぎ、地域唯一のカトリック高等教育機関として、社会と地域に貢献して参りました。見えるものを通して、見えないものにここを向け、地域の暮らしに深く根をおろし、学知と本当の優しさに裏打ちされた知恵によって、世界をより善いものに変えていく。そんな女性たちを世に送り出す大学として、多くの卒業生と支援者に支えられ、小規模校ながら、「かたち」のみの格付けを超えた、活力と気品に満ちた、別格、別品の大学であり続けたいと思います。

みなさまが清泉での学びに加わられる日を楽しみにお待ちしております。

2016 年度卒業証書・学位授与式 式辞

卒業生の皆さん、おめでとうございます。ご多忙の中、ご列席いただきましたご来賓の皆さまと、ここに集う本学教職員一同とともに、心よりお祝いを申し上げます。

今日は、三月十一日です。式辞を述べるにあたり、六年前の三月十一日の地震と津波、翌日に起こった長野県北部地震、福島第一原発メルトダウンによる爆発などを思いおこし、皆さんとともに、短い沈黙の祈りの時間をとりたいと思います。（黙祷）ありがとうございます。

今年、アメリカ・アカデミー賞候補作に「Hidden Figures」という映画がありました。NASAで大量の計算をこなしたアフリカ系アメリカ人女性数学者たちを描いた作品です。いまでこそ、ジョン・グレンがアメリカ人として初めて地球を回ることに成功したのは彼女たちの正確な計算があったからこそと言われます。しかし、一九五〇年代、彼女たちは「カラード・コンピュータ」と呼ばれ、白人の同僚たちから隔離されたオフィスで働き、論文に自分の名前を載せることさえ許されていなかったのです。そんな人種とジェンダーの壁をキャサリン・ジョンソンのような才能に満ちた女性たちが打ち壊していきました。壁が崩れるにはとても長い時を要しました。彼女たちの名前と業績が広く知られるようになったのは、二十一世紀になってからのことです。他にも世界中に、たくさんの女性たちの活躍の隠された物語があるのです。そして、残念ながら、人種やジェンダーなど様々な壁が多く場所はまだ存在し、さらなる壁を造ろうとする人さえいます。だからこそ、ジェンダーによる障壁を排除した環境の中で、女性がすべての能力を発揮する体験ができるように設計された女性のための高等教育機関で学んだみなさんの活躍が重要になるのです。

清泉女学院は、ただの女子大ではなく、カトリックの女子高等教育機関です。その学びの中心にあるものは、ひとことで言えば、「愛」です。今年、二月に福者にあげられた高山右近の時代、新約聖書の言葉であるギリシャ語のアガペーは、誤解を招きやすい「愛」ではなく、「御大切」と訳されました。愛は「大切、大事にする」ころと言った方がたしかに分かりやすいでしょう。「敵を愛せ」と言われても、敵を好きになることは難しい。でも、たとえ、敵であっても、相手の存在を認め、その存在を大事にすることはできる。他者を愛することは、執着することではなく、大切にすることです。在学中、繰り返し学んだように、福音の重要なメッセージは、例外なく、すべての人、一人一人が、神から愛される、つまり、大事にされる、大切なかけがえのない存在であるということです。

これからの人生では、予期せぬ、不運に見舞われることもあるでしょう。考え抜いた正しい行いをしたために、かえって、不利益を蒙り、謂われなき非難を浴びるようなことが起こるでしょう。あてにした誰かに裏切られ、全世界から見放されたように思える時があるかも

しれません。そんな孤立無援の絶望的状况に陥ることがあっても、大丈夫です。思い出して下さい。清泉の校舎に刻まれたラテン語の句を。たとえ、世界中があなたを無視したとしても、あなたをずっと見守っている、確かな存在があるのです。本学の校舎に刻まれている DOMINUS TECUM 「神はあなたとともにいる」とは、そういう意味です。何故、いま、自分が生かされているのか、その不思議を思い、どんな時も、 SURSUM CORDA 心を高くあげて、すべての過ぎゆくものの奥にあって、変わることもないなにかへ思いをはせて下さい。

ここ、上野のキャンパスにおいて、他者とのかかわりの中で、それぞれのこころを育てたあなたがたの笑顔が、傷ついた世界を癒し、平和をつくりだしていくのです。二十一世紀のケアの文化を支え、世界をより善いものに変える皆さんを、本日、社会に送りだせることは、私たち清泉の教職員にとって、大いなる喜びであり、誇りです。どうか、これからも、清泉の卒業生として、本学の未来を支えて下さい。

卒業生のみなさんの末長いご多幸と、社会でのご活躍をお祈りするとともに、本日、御列席のご家族、関係者の皆様へ、これまで本学にいただいた暖かいご支援を深く感謝申しあげて、式辞の結びと致します。

ありがとうございました。

2017 年 3 月 11 日

学長 芝山 豊